

文化財の資料学的研究 (①企02-15-5/5)

目 的

日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。

成 果

1. 東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業を行った。
2. 美術史研究のためのコンテンツづくりとして、平安時代在銘彫刻作品の銘文データの入力と編年目録(年表)の作成を行った。
3. イケムラレイコ氏の公開対談会を行い、ウェブ上での公開準備を行った。
4. 明治期の美術書簡に関連する研究の成果を2015(平成27)年8月31日に開催された企画情報部研究会において口頭発表を行った。
5. 4の成果にかかる内容を『美術研究』416、417、418号に掲載した。
6. 奈良国立博物館との共同研究による成果公表のため、兵庫・一乗寺蔵「聖徳太子及天台高僧像」に関し、カラー画像の報告書を刊行した。

論文

- ・児島薫「藤島武二による黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について(2)」『美術研究』416 pp.16-48 15.8
- ・児島薫「藤島武二による黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について(3)」『美術研究』417 pp.78-123 16.1
- ・児島薫「黒田清輝、久米桂一郎宛藤島武二書簡(3)承前」『美術研究』418 pp.81-93 16.3

発表

- ・イケムラレイコ・山梨絵美子・皿井舞 公開鼎談「「かたち」の生成をめぐる ―イケムラレイコの場合― 東京文化財研究所セミナー室 15.6.9 (東京文化財研究所ウェブサイト上で公開 16.2)
- ・高山百合(福岡県立美術館学芸課学芸員)「黒田清輝宛岡田三郎助書簡 翻刻と解題」 15.8.31
- ・松本誠一(佐賀県立博物館・佐賀県立美術館副館長)「岡田八千代の小説から見た岡田三郎助像」 企画情報部研究会 15.8.31
- ・津田徹英「14世紀絵巻詞書総覧構想と有効利用について―京都・金蓮寺本「遊行上人縁起絵巻」での適用事例を中心に、その即効性と限界を考える―」 総合研究会 15.12.1

報告書

- ・『法華山一乗寺蔵国宝天台高僧像光学調査報告書―カラー画像篇』 16.3

研究組織

- 小林達朗、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、津田徹英、皿井舞、安永拓世、橘川英規(以上、企画情報部)、江村知子(文化遺産国際協力センター)、中野照男、三上豊、近松鴻二、吉田千鶴子(以上、客員研究員)